

# 島しょ等地域の認知症対応力向上に向けた支援事業

令和6年度事業実施報告書

令和7年3月

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

センター長 井藤佳恵

# 目次

1	事業実施の背景と目的.....	1
1.1	目的.....	1
1.2	事業の実施に至る経緯.....	1
1.2.1	当時の状況.....	1
1.2.2	当時の課題.....	2
1.3	本事業の内容.....	3
2	認知症対応力向上研修の実施.....	5
2.1	訪問による研修.....	5
2.1.1	新島村における事業実施状況.....	5
2.1.2	大島町における事業実施状況.....	11
2.1.3	三宅村における事業実施状況.....	17
2.1.4	檜原村における事業実施状況.....	22
2.2	オンラインによる研修.....	26
2.2.1	専門職向け研修.....	26
2.2.2	住民向け研修.....	26
3	研修の質の評価.....	27
3.1	訪問による研修の質の評価.....	27
3.1.1	新島村で実施した研修の質の評価.....	27
3.1.2	大島町で実施した研修の質の評価.....	36
3.1.3	三宅村で実施した研修の質の評価.....	42
3.1.4	檜原村で実施した研修の質の評価.....	45
3.2	オンラインによる研修の質の評価.....	49
3.2.1	大島町で実施した研修の質の評価.....	49

3.2.2	利島村で実施した研修の質の評価 .....	51
3.2.3	小笠原村で実施した研修の質の評価 .....	54
3.2.4	新島村で実施した研修の質の評価 .....	56
3.2.5	八丈町で実施した研修の質の評価 .....	59
4	島しょ地域認知症医療サポート事業の実施 .....	62
4.1	目的 .....	62
4.2	認知症の診断および治療等に関わる相談支援 .....	62
4.2.1	事業概要 .....	62
4.2.2	事業の実施 .....	63
4.3	認知症初期集中支援チームの活動支援 .....	63
4.3.1	事業概要 .....	63
4.3.2	事業の実施 .....	63
4.4	島しょ地域等との認知症支援に関する意見交換会 .....	65
4.4.1	事業概要 .....	65
4.4.2	事業実施 .....	65
5	考察 .....	66

# 1 事業実施の背景と目的

---

## 1.1 目的

本事業の目的は、東京都の島しょおよび中山間地域（以下、島しょ等地域）において、認知症と共に生きる人と家族を支える体制作りを進めるために、自治体職員、地域包括支援センター職員、医師・看護師等の医療従事者、介護職員を対象とした研修を実施するとともに、島しょ等地域における認知症対応力の向上を図るための方策を検討することにある。

東京都の島しょ地域には、伊豆大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島と小笠原諸島（父島、母島）の、11の離島が含まれる。東京都の離島は、新島と式根島が新島村を、父島と母島が小笠原村を構成することを除いて、1島1村の体制であり、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村の9町村で島しょ二次保健医療圏を構成する。

## 1.2 事業の実施に至る経緯

平成26年1月8日に、島しょ等地域で暮らす認知症等高齢者とその家族を支える体制の「現状と課題」について、東京都福祉保健局より、以下のような情報を得た。

### 1.2.1 当時の状況

島しょ二次保健医療圏の人口は約23,000人（2024年6月）で、東京都の人口の0.2%を占める。高齢化率は16～40%で、東京都全体の高齢化率が23%であることと比較すると、島しょ地域の多くの町村の高齢化率がこれを上回っている。

東京都では現在、13の二次保健医療圏のうち12の二次保健医療圏に認知症疾患医療センターが設置されており、唯一未設置の二次保健医療圏が、島しょ二次保健医療圏である。

医療・介護資源の多寡、認知症疾患医療センターの設置の有無に関わらず、人には質の高い認知症医療・ケアを受ける権利がある。東京都の、認知症疾患医療センターが設置されていない地域、つまり島しょ二次保健医療圏への支援を課題として、八丈町役場、大島町役場、東京都島しょ保健所の職員を対象としたヒアリングが実施された。

## 1.2.2 当時の課題

八丈町役場、大島町役場、東京都島しょ保健所の職員を対象としたヒアリングの結果、以下の課題が把握された。

### (1) 医療資源の不足

島しょ地域において、精神科医師が常駐している医療機関はなく、本土の精神科医師が週に1日程度来島し診療を行っている。近年、統合失調症などを含めた精神疾患患者が増加傾向にあり、認知症も含めて精神科の需要が増加しているが、診療枠を増やすことは財政的にも人員確保の面からも厳しい状況である。

来島している精神科医師は必ずしも認知症を含め老年精神医学が専門分野ではないことや、医療機関に備えている機器等も少ないため、個々の患者の認知症の症状に対応した適切なケア及び診療が行えていない。

一般に、認知症の行動・心理症状が目立つ場合には、入院して精神科医師による薬物療法を行い、適切なケアを実施することにより、症状を緩和させることが選択肢となるが、島しょ地域においては医療資源が不足していて難しいため、本土に入院先を探すこととなる。

### (2) 研修機会の不足

①**役場職員**：役場に認知症施策担当職員を配置している島はなく、ほとんどの島が高齢福祉行政について1つの課で対応しているため、十分な認知症施策を推進できていないと言えない。また、認知症に関する知識を学ぶ機会も少ないため、政策を進める上での障壁となっている。

②**医師**：常勤の内科医は島に1人もしくは2人であるため、通常業務が多忙である。また、地理的条件からも、本土で開催する認知症サポート医研修なども受講できず、認知症医療の知識の底上げが図れない。

③**介護職**：介護現場でも、通常業務が多忙である等の理由から、本土で開催される認知症研修などを受講できない。個々の利用者の症状に応じた適切なケアを知る機会がなく、相談できる窓口もないため、緊急時や判断に困った際には手探りで対応している。

## 1.3 本事業の内容

上記の情報を踏まえ、東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センターと認知症疾患医療センターが協働し、島しょ二次保健医療圏を構成する町村および、認知症疾患医療センター未設置の自治体である檜原村を対象として、平成24年度から研究調査を、平成25年度からは研修を継続している。

現在は、訪問とオンラインを併用して事業を展開している。具体的には、毎年、離島の9町村のうち3町村ずつ訪問し、訪問しなかった6町村はオンライン、中山間地域である檜原村についても、3年に1回訪問し、訪問しなかった年にはオンラインで事業を実施する。令和6年度は新島村、大島町、三宅村、檜原村の4町村を訪問した。

令和6年度から事業を拡充し、上記、訪問による研修等の実施のほか、対象自治体の住民および専門職を対象としたオンラインによる研修を開始した。また、東京都、東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センターと認知症疾患医療センターと対象自治体が一同に会して実施する認知症支援に関する意見交換会を創設し、対象自治体相互の情報交換や交流を図る試みを開始した。

事業の内容は次のとおりである。

### (1) 訪問の調整

- ・各島の認知症支援に係る基本情報の収集。
- ・東京都および各島の高齢福祉主管課の本事業担当者と調整の上、各島を訪問するための日程調整、研修等の事業実施内容の検討と調整。

### (2) 研修会の実施

- ・各島において医療・介護等専門職を対象とする研修会を開催
- ・要望に応じて一般住民に対する研修会を開催。
- ・要望に応じて専門職および一般住民を対象とする相談会を開催。
- ・要望に応じて認知症初期集中支援チーム員テストを実施。
- ・研修内容の質の評価

### (3) 各島における今後の認知症支援体制づくりのあり方の検討

- (4) ・基礎資料を得ることを目的に、認知症支援に係る関係者による関係者ミーティング(フォーカス・グループ・ディスカッション：FGD)を実施。

- ・関係者ミーティングの発言内容の質的分析による支援方策の立案。

## 2 認知症対応力向上研修の実施

---

### 2.1 訪問による研修

#### 2.1.1 新島村における事業実施状況

##### 2.1.1.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
認知症支援推進センター センター長	医師	井藤 佳恵
脳神経内科 専門部長	医師	仁科 裕史
認知症支援推進センター	公認心理師	高岡 陽子

##### 2.1.1.2 日程

令和6年7月22日（月）～7月24日（水）

##### 2.1.1.3 事業実施状況

新島村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場	
7月22日	10:50	調布空港発		
	11:30	新島空港着		
	13:30	関係者ミーティング	さわやか健康センター	
	18:00	研修①「認知症基礎講座」		
	19:00	よろず相談会①		
7月23日	9:00	研修②「認知症基礎講座」	若郷会館	
	10:00	よろず相談会②		
	11:00	式根島に移動（連絡船） 昼休憩		
	13:00	研修③「認知症基礎講座」	式根島福祉健康センター	
	14:00	よろず相談会③		
	15:00	デイサービス見学		
	16:00	新島に移動（連絡船）		
	16:30	よろず相談会④	さわやか健康センター	
	7月24日	9:00	よろず相談会⑤	シルバー人材センター
		13:20	新島空港発	
14:00		調布空港着		

#### 2.1.1.3.1 研修会

7月22日から7月23日にかけて新島村さわやか健康センターと、若郷会館、式根島福祉健康センターにて研修会を実施した。

研修①	
実施日	令和6年7月22日
会場	さわやか健康センター
時間	15:00～16:00
内容	「認知症基礎講座」
講師	井藤佳恵
対象	住民
出席者数	14名



研修②	
実施日	令和6年7月23日
会場	若郷会館
時間	9:00～10:00
内容	「認知症基礎講座」
講師	仁科裕史
対象	住民
出席者数	10名



研修③	
実施日	令和6年7月23日
会場	式根島福祉健康センター
時間	13:00～14:00
内容	「認知症基礎講座」
講師	高岡陽子
対象	住民
出席者数	12名



#### 2.1.1.3.2 事例検討会

事例検討会は開催されなかった。

#### 2.1.1.3.3 相談会

7月22日から7月24日にかけて相談会を5回実施した。

相談会①	
実施日	令和6年7月22日
対象	住民
会場	さわやか健康センター
時間	19:00～20:00
相談件数	4件

相談会②	
実施日	令和6年7月23日
対象	住民
会場	若郷会館
時間	10:00～11:00
相談件数	2件

相談会③	
実施日	令和6年7月23日
対象	住民
会場	式根島福祉健康センター
時間	14:00～15:00
相談件数	2件

相談会④	
実施日	令和6年7月23日
対象	住民
会場	さわやか健康センター
時間	16:30～17:30
相談件数	2件

相談会⑤	
実施日	令和6年7月24日
対象	職員
会場	シルバー人材センター
時間	9:00～10:00
相談件数	1件

#### 2.1.1.3.4 視察

視察	
実施日	令和6年7月23日
場所	式根島福祉健康センター
時間	15:00～15:30

### 2.1.1.3.5 関係者ミーティング

#### (1) 会の概要

関係者ミーティング	
実施日	令和6年7月22日
会場	さわやか健康センター
時間	14:00～15:00
出席者数	11名

#### (2) 参加者の属性

所属	n	%
役場	3	27%
診療所	1	9%
保健所・保健センター	4	36%
民生委員協議会	1	9%
社会福祉協議会	1	9%
居宅介護支援センター	1	9%
合計	11	100%

職種	n	%
事務職	5	45%
保健師	3	27%
ケアマネジャー	1	9%
民生委員	1	9%
看護師	1	9%
合計	11	100%

#### (3) 内容

関係者ミーティングで語られた内容は以下の通りである。

##### 1. 高齢者の集いの場、活動の場

- ・ 式根島地区では令和3年度からデイサービスを再開したが、新島地区では再開の見込みは立っていない。現状、予防支援はできているが、要介護1・2を対象としたサービスが不足している。

- ・ 高齢者の集いの場として、社会福祉協議会で「ひだまりサロン」を開始。参加者は平均年齢 90 歳程度で、本来であればデイサービス対象となる人々。ゆくゆくはボランティア主体で運営したいが、高齢化によりボランティアの確保が課題である。
- ・ 高齢者はインフォーマルな集まりも大事にしており、温泉に足繁く通って交流している。

## 2. 介護予防支援について

- ・ 要支援 1・2 を対象とした介護予防教室を実施している。行政主導の介護予防教室だけでなく、住民がより自主的に活動できるような集まりが広まっていくことが理想である。

## 3. 地域の助け合い

- ・ 「認知症とまではいかないグレーゾーンの高齢者」が多く、現時点では親族や近隣住民で助け合って生活している。
- ・ 地域が狭いため周囲も気に掛けてはいるが、「家族でないと踏み込めない部分」もある。

## 4. 独居高齢者の現状と課題

- ・ 独居高齢者の見守りは、社会福祉協議会に見守り事業として委託している。心配と感じられる高齢者については関係機関に情報共有している。
- ・ 運転ができなくなることや、自分一人での移動ができなくなことは、独居継続が困難となる一つの大きな目安である。
- ・ 高齢化により独居高齢者が増加し、親戚関係が減少している。従来地域の助け合いは減少していくことが見込まれる。

## 5. 住民の認知症に対する認識

- ・ 認知症関連の講座を住民に勧めると、「自分が認知症と思われているのではないか」、「講座に参加することを知られたくない」と考える住民が多い。支援者としては、「地域住民全員が認知症に理解がある、認知症を支え合える地域」を目指したい。



## 2.1.2 大島町における事業実施状況

### 2.1.2.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
認知症支援推進センター センター長	医師	井藤 佳恵
認知症支援推進センター	公認心理師	高岡 陽子
認知症支援推進センター	公認心理師	中山 莉子
健康長寿医療研修センター	研究員	進藤 由美

### 2.1.2.2 日程

令和6年10月23日（水）～10月24日（木）

### 2.1.2.3 事業実施状況

大島町の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
10月23日	10:35	調布空港発	
	11:00	大島空港着	
	13:00	研修①「認知症の基礎知識 認知症の経過」	大島町役場
	14:00	よろず相談会①	
	17:30	関係者ミーティング	
10月24日	9:00	よろず相談会②	大島町役場
	10:00	研修②「集団療法のススメ方」	
	11:00	よろず相談会③	
	11:40	施設見学	グループホームあすなろ
	13:50	大島空港発	
	14:15	調布空港着	

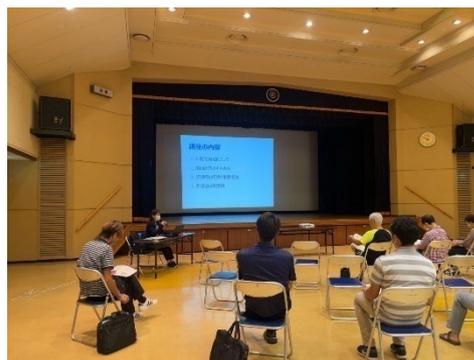
### 2.1.2.3.1 研修会

10月23日から24日にかけて大島町役場にて研修会を実施した。

研修①	
実施日	令和6年10月23日
会場	大島町役場
時間	13:00～14:00
内容	「認知症の基礎知識 認知症の経過」
講師	井藤佳恵
対象	住民
出席者数	35名



研修②	
実施日	令和6年10月24日
会場	大島町役場
時間	10:00～11:00
内容	「集団療法のススメ方」
講師	高岡陽子
対象	専門職
出席者数	14名



### 2.1.2.3.2 事例検討会

開催されなかった。

### 2.1.2.3.3 相談会

10月23日から24日にかけて大島町役場にて相談会を実施した。

---

相談会①	
実施日	令和6年10月23日
対象	住民
会場	大島町役場会議室
時間	14:00~17:00
相談件数	4件

---

---

相談会②	
実施日	令和6年10月24日
対象	住民
会場	大島町役場会議室
時間	9:00~9:45
相談件数	1件

---

---

相談会③	
実施日	令和6年10月24日
対象	専門職
会場	大島町役場会議室
時間	11:00~11:30
相談件数	1件

---

### 2.1.2.3.4 視察

---

視察	
実施日	令和6年10月24日
場所	グループホームあすなろ
時間	11:40~12:10

---

### 2.1.2.3.5 関係者ミーティング

#### (1) 概要

関係者ミーティング	
実施日	令和6年10月23日
会場	大島町役場会議室
時間	17:30~18:40
出席者数	22名

#### (2) 参加者の属性

所属	n	%
役場	5	23%
地域包括支援センター	3	14%
病院	2	9%
保健所・保健センター	2	9%
居宅介護支援事業所	2	9%
訪問看護ステーション	2	9%
福祉用具貸与	2	9%
介護老人福祉施設	1	5%
支庁	1	5%
グループホーム	1	5%
デイサービス	1	5%
合計	22	100%

職種	n	%
事務職	6	27%
ケアマネジャー	4	18%
保健師	3	14%
医師	2	9%
福祉用具専門相談員	2	9%
社会福祉士	1	5%
介護支援専門員	1	5%
理学療法士	1	5%
その他	2	9%
合計	22	100%

### (3) 内容

関係者ミーティングの内容は以下の通りである。

#### 1. 認知症診断や治療に関する現状

- ・ 医療センター医師は精神医学や老年医学は専門ではないが、付き添い者からの情報や心理検査(HDS-R：改訂長谷川式簡易知能評価)の結果等から総合的に判断して認知症診断し、薬を処方することもある。診察にケアマネジャーが付き添うことは多く、医師はケアマネジャーからの相談に親身に応じている。

#### 2. 高齢者の通いの場、集いの場

- ・ 認知症カフェがあったらよいとの意見もあるが、交通の便の課題もあり実現には至っていない。
- ・ 運営側の高齢化が進み、通所介護の今後の担い手の確保が課題である。

#### 3. 介護予防支援

- ・ 認知症予防としての事業はないが、一般の介護予防教室と、要支援を対象とした介護予防教室を実施している。「友人が行っているから」という理由で参加する住民が多い。

#### 4. 支援者間の連携や情報共有について

- ・ 地域包括支援センターには、民生委員、医療機関、役場などの関係機関から相談が入ることが多い。関係機関の連携は良好である。

#### 5. 住民同士のつながり

- ・ 離島という環境上、「生活する上で制限や制約があるのは仕方がない」という風土がある。そのため、住民の中で「何かあったときに助け合う」という意識が共有されており、地域のつながりが強い。

## 6. 住民の認知症に対する認識

- ・ 住民は認知症のある高齢者に「普通に」接しており、偏見は感じない。
- ・ 家族の同居・非同居を問わず、「認知症によって生じる困りごとを家族が知識として持っていない」印象がある。
- ・ 「高校を卒業すると、みんな一度は島を出ていく。親を島に残していくということがどういうことなのか知ってほしい」という思いから、認知症サポーター養成講座を毎年高校生対象に開催し、認知症の正しい知識の普及のため啓発活動を行っている。

## 7. 本事業への要望

- ・ 東京の病院へ受診することは高齢者でなくともハードルが高い。オンライン診療が可能ならとても助かる。  
→診療ではなくコンサルトという形でサポート事業を活用いただくことは可能である。



## 2.1.3 三宅村における事業実施状況

### 2.1.3.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
認知症支援推進センター センター長	医師	井藤 佳恵
脳神経内科 専門部長	医師	仁科 裕史
認知症支援推進センター	公認心理師	高岡 陽子
認知症支援推進センター	公認心理師	中山 莉子

### 2.1.3.2 日程

令和6年11月26日（火）～11月27日（水）

### 2.1.3.3 事業実施状況

三宅村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
11月26日	8:40	調布空港発	
	9:30	三宅島空港着	
	10:00	認知症初期集中支援チーム員研修	リスタホール
		昼休憩	
	13:00	研修「認知症ケアの基本について」	リスタホール
	14:30	よろず相談会	
11月27日	16:00	関係者ミーティング	
	9:50	三宅島空港発	
	10:40	調布空港着	

### 2.1.3.3.1 研修会

11月26日に、リスタホールにて研修会を実施した。

研修①	
実施日	令和6年11月26日
会場	リスタホール
時間	10:00～11:30
内容	認知症初期集中支援チーム員研修
講師	井藤佳恵・仁科裕史・高岡陽子
対象	専門職
出席者数	3名



研修②	
実施日	令和6年11月26日
会場	リスタホール
時間	13:00～14:30
内容	「認知症ケアの基本について」
講師	高岡陽子
対象	住民
出席者数	15名



### 2.1.3.3.2 事例検討会

開催されなかった。

### 2.1.3.3.3 相談会

相談会	
実施日	令和6年11月26日
対象	住民
会場	リスタホール
時間	14:30～15:30
相談件数	4件



#### 2.1.3.3.4 関係者ミーティング

##### (1) 概要

関係者ミーティング	
実施日	令和6年11月26日
会場	三宅村役場
時間	16:00～17:00
出席者数	13名



##### (2) 参加者の属性

所属	n	%
役場	4	31%
地域包括支援センター	2	15%
保健所	2	15%
居宅介護支援事業所	2	15%
支庁	2	15%
診療所	1	8%
合計	13	100%

職種	n	%
事務職	5	38%
ケアマネジャー	2	15%
保健師	1	8%
栄養士	1	8%
医師	1	8%
ケースワーカー	1	8%
その他	2	15%
合計	13	100%

##### (3) 内容

関係者ミーティングの内容は以下の通りである。

## 1. 認知症支援の現状と課題

- ・ 認知機能低下が疑われる高齢者はいるが、本人が支援の必要性を認識しておらず、家族も受診に消極的であり、早期に医療機関や相談窓口につながらないことが課題である。
- ・ 地域包括支援センターでは、本人や家族から認知症に関する相談を受けることは少ない。認知症に関する相談先を知らない住民が多い。

## 2. 独居高齢者の支援に関する課題

- ・ 運転ができなくなると、買い物難民となり、食事内容が不十分で低栄養となる悪循環が起こる。また、活動範囲が狭まり、家で過ごさざるを得ない高齢者が一定数いる。車がなくても外出できる機会が得られると良い。
- ・ 震災復興の際に移住してきた建築業の人々が高齢化してきている。独居でキーパーソンが不在であるため、今後認知症となった場合の支援が課題である。

## 3. GPS 事業の現状と課題

- ・ 徘徊による行方不明者を効率的に検索するため、GPS 事業を導入した。靴と GPS をセットで貸し出しているが、靴のデザインが好まれないという理由もあり、あまり履かれていない。杖やバッグに装着するタイプもあるが、外出時に必ず身に着けるわけではないため、装着の課題がある。
- ・ GPS は週 2～3 回の充電が必要であり、家族がいれば対応可能だが、独居では困難な場合がある。

## 4. 住民の認知症に対する認識

- ・ 認知症への関心の程度は人それぞれだが、自分が認知症となった場合に、「周囲に知ってほしい」、「知られて構わない」と考える住民が多い。全島避難を経験したコミュニティだからこそ、「自分の症状を誰かに知ってもらうことは、日常生活を送る安心材料になる」という認識があるのではないか。

## 5. 本事業への要望

- ・ サポート事業の認知症初期集中支援チームの活動支援が支援関係者に十分に周知されていない。支援者の中でも、認知症初期集中支援チームの役割を把握していない部分があると思われるため、センター側から実践例を提示すると、申し込みやすくなるのではないかと。

## 2.1.4 檜原村における事業実施状況

### 2.1.4.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
認知症支援推進センター センター長	医師	井藤 佳恵
精神科部長 認知症支援推進センター副センター長	医師	古田 光
認知症支援推進センター 課長代理	精神保健福祉士	畠山 啓
認知症支援推進センター	公認心理師	高岡 陽子
認知症支援推進センター	公認心理師	中山 莉子

### 2.1.4.2 日程

令和6年12月12日（木）

### 2.1.4.3 事業実施状況

檜原村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
12月12日	10:30	大山出発	
	12:30	武蔵五日市着	
	14:00	研修「せん妄、せん妄ケア」	やすらぎの里
	15:00	関係者ミーティング	

#### 2.1.4.3.1 研修会

研修①	
実施日	令和6年12月12日
会場	やすらぎの里
時間	14:00～14:30
内容	「せん妄について」
講師	古田 光 医師
対象	専門職
出席者数	8名



---

### 研修②

---

実施日	令和6年12月12日
会場	やすらぎの里
時間	14:30～15:00
内容	「せん妄ケアについて」
講師	高岡 陽子 心理師
対象	専門職
出席者数	8名

---



#### 2.1.4.3.2 事例検討会

開催されなかった。

#### 2.1.4.3.3 相談会

開催されなかった。

#### 2.1.4.3.4 関係者ミーティング

##### (1) 会の概要

---

#### 関係者ミーティング

---

実施日	令和6年7月22日
会場	さわやか健康センター
時間	14:00～15:00
出席者数	10名

---

## (2) 参加者の属性

所属	n
病院	2
診療所	2
地域包括支援センター	1
村役場	4
社会福祉協議会	1
<b>合計</b>	<b>10</b>

職種	n
看護師・准看護師	2
保健師	2
介護福祉士	1
社会福祉士	1
事務職	2
精神保健福祉士	1
理学療法士	1
<b>合計</b>	<b>10</b>

## (3) 内容

関係者ミーティングの内容は以下の通りである。

### 1. 認知症支援と他機関連携

- ・ 認知症ケアパスは、年度内に作り替える予定である。
- ・ 業務の棲み分けに課題があるため、認知症初期集中支援チームの活動は既存の事業の枠組みで対応している。
- ・ 診療所では対応に苦慮するケースはない。服薬管理の課題から認知症に気付く場合は福祉に繋げている。また、簡単な認知機能検査を実施し、近隣病院に紹介して精査している。
- ・ 他機関とは情報共有しやすい関係性にあり、専門職同士の連携も密である。

## 2. 人材及び資源の不足について

- ・ 人材及び資源の不足により社会福祉協議会に負担がかかっているが、社会福祉協議会も人手不足の状況である。
- ・ デイサービス業務が多忙で、認知症地域支援推進員との兼務が課題である。推進員の仕事により多くの時間を割けるのであれば、一般住民向けの認知症講座を開催したい。
- ・ 民生委員の年齢層は50～70代。なり手の確保が難しく、役場職員が知り合いに積極的に声をかけて定数を確保した。

## 3. 地域の支え合い

- ・ 住民同士が顔見知りの関係で、役場と住民の距離感も近い。情報共有できる仕組みがコミュニティ内にある。ただし、新型コロナウイルス感染症感染拡大を機に移住してきた人は、コミュニティに入らない傾向があり情報が把握しづらい。

## 4. 高齢者の移動手段の課題

- ・ 高齢者の免許返納後の移動手段の確保が課題である。多くの自治体で返納後に電動カーブ貸出サービスを行っているが、山間部では使用できないため、国の推奨する代替方法が村の状況に当てはまらない。

## 5. 高齢者が安心して暮らすための環境づくり

- ・ 買い物支援として、高齢者買い物支援事業の実施と、地域おこし協力隊の買い物代行サービスがある。
- ・ 防犯カメラが五日市から都道沿いにしかなく、それ以外の道路では足取りが把握できない。徘徊等の見守り強化のため、防犯カメラの設置やGPSの活用を進めていきたい。

## 2.2 オンラインによる研修

### 2.2.1 専門職向け研修

専門職向け研修	
実施日	令和6年11月15日
会場	オンライン
時間	14:05～16:05
内容	「BPSDの理解と対応」、グループワーク
講師	古田光
対象	行政職員、専門職
出席者数	54名

### 2.2.2 住民向け研修

住民向け研修は、二日に分けて開催した。

住民向け研修①	
実施日	令和6年11月11日
会場	オンライン
時間	13:35～15:00
内容	「認知症について学ぼう！」
講師	古田光
対象	住民(大島町、利島村、小笠原村)
出席者数	54名(大島町18、利島村13、小笠原23)

住民向け研修②	
実施日	令和6年11月18日
会場	オンライン
時間	13:35～15:00
内容	「認知症について学ぼう！」
講師	古田光
対象	住民(新島村、八丈町)
出席者数	19名(新島村8、八丈町11)

## 3 研修の質の評価

### 3.1 訪問による研修の質の評価

研修の質を評価するために、研修終了後に、研修受講者に対しアンケートを実施した。以下に、各町村で実施したアンケートの結果を、研修の單元ごとに示す。

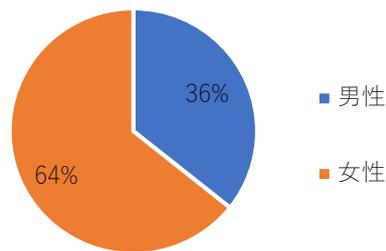
#### 3.1.1 新島村で実施した研修の質の評価

##### 3.1.1.1 研修①「認知症基礎講座」本村地区

問1 ご自身のことについて教えてください

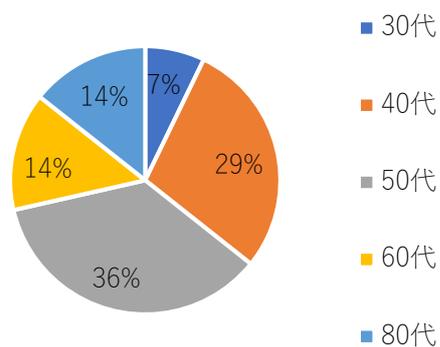
##### 1. 性別

	n	%
男性	5	36%
女性	9	64%
合計	14	100%



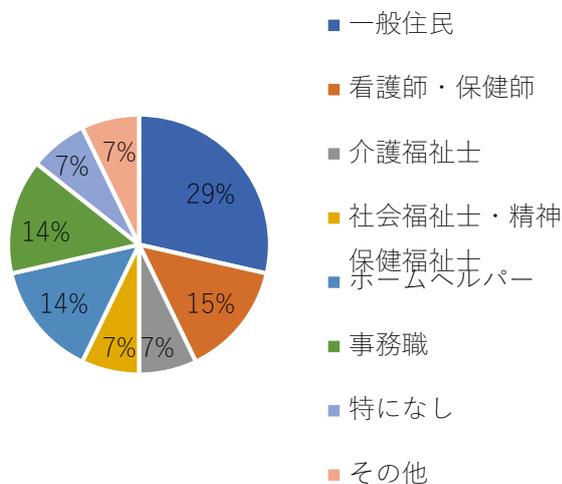
##### 2. 年代

	n	%
30代	1	7%
40代	4	29%
50代	5	36%
60代	2	14%
80代	2	14%
合計	14	100%



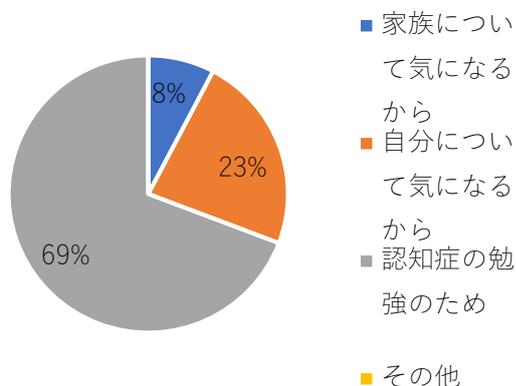
### 3. 職種

	n	%
一般住民	4	29%
看護師・保健師	2	14%
介護福祉士	1	7%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	7%
ホームヘルパー	2	14%
事務職	2	14%
特になし	1	7%
その他	1	7%
合計	14	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

	n	%
家族について気になるから	1	7%
自分について気になるから	3	21%
認知症の勉強のため	9	64%
その他	0	0%
回答なし	1	7%
合計	14	100%



問3 講演について

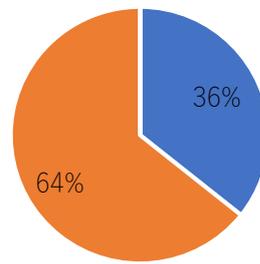
#### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	9	64%
大体理解できた	5	36%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	14	100%



## (2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	5	36%
たぶん役に立つと思う	9	64%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	14	100%



- 非常に役に立つと思う
- たぶん役に立つと思う
- 役に立たないと思う
- わからない

### 具体的内容

- ・ 住民全員に聞いて頂きたい内容です。特別なことではないからこそ当たり前を知っていてほしい内容だと思いました。
- ・ 日々の生活を計画をたてて少しでもいいから実行していきたいと思う。
- ・ 順調に加齢症状が出ています。役立てたいと思っていますが自信はありません。自分の事が自分でできる時間を少しでも長くしたいと思っています。
- ・ 親の認知症をみてきたので自分も気を付けようと思い今日の講演に参加しました。
- ・ 認知症の方の脳の進行など、知らないことが多く、非常に役に立った。
- ・ 認知機能障害の進行を度合いによって分かりやすく説明されているところや、将来に向けて家族等と希望をよく話し合っておくことは、今後独居高齢者が増える見込みであるため、住民に伝えていくことの必要性を感じた。
- ・ 認知症が進行するとどうい風になるのかの一般例がよく解った。
- ・ 身近に気になる人が居るので参考にしたいと思った。
- ・ 将来に向けて、誰かに伝えておくということ、どのタイミングで・・・？わからなくなってしまう前に、きちんとやっておこうと思いました。
- ・ 人生設計について利用者さんのケアマネジメントを行っていく上で、家族もまじえ、考えを確認しておくことは大切だと思った。「どうしたいか」よりも「どうなりたくない」と意向を聞いた方が、答えていただきやすいかなとも思った。
- ・ 認知症になってしまった人が、その先の人生に向けて考えることが難しい時代になっており、それを伝える家族等がない人も増えているので、その面についても考えなければと感じました。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

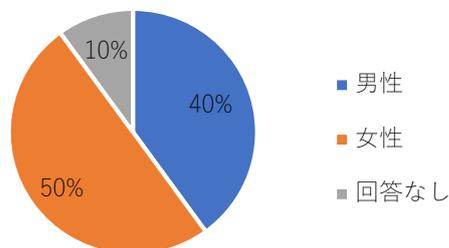
- ・ 今回の参加は自宅にいる母の為に来ましたが、出来ればもう少し具体的な対応方法が知りたかった。確かに個々で事例は違うので難しいと思いますが、日付が解らなくなったらこんな対応ができますよ〜とか、下の世話が必要になった時の本人の自尊心を傷つけずにおむつに移行する方法とか…。こんな事が出てきたら、こんな方法で対応していくと良いですよーという事が知りたかった。
- ・ 基礎の他にもやってほしいと思った。
- ・ もうちょっと多くの人に来ていただけたらと思いました。時間帯なのか対象者が少ない？のか知らなかったのか、島内では平均年齢も高いので関係する(気にする)方はもっと多いと思います。
- ・ 平常時にできること、情報収集の必要性、教えていただきました。今日はありがとうございました。
- ・ 以前、認知症の方、その家族の方、それぞれの立場に立ったRPG?による研修を受けたことがあり、その時は、認知症の方本人の気持ちと、それを支える家族の方の気持ちとそれぞれの気持ちを知ることができ、とても勉強になりました。そのような研修ができれば、いろいろな立場の方、子供も若い人もいろいろな人が参加できれば、認知症へのとらえ方も変わってくるのでは?と思います。
- ・ とても解りやすい説明だったのでもっと多くの村民の方に聞いてもらいたかったです。(特に認知症の人がいる家族の人に)是非聞いてほしかった内容でした。「認知症」に対する認識を深めてもらえると思いました。

### 3.1.1.2 研修②「認知症基礎講座」若郷地区

問1 ご自身のことについて教えてください

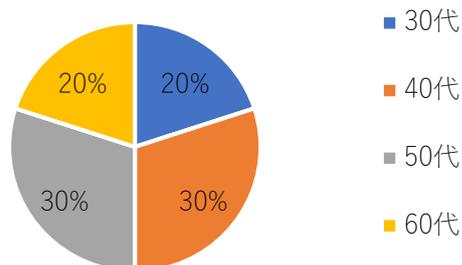
#### 1. 性別

	n	%
男性	4	40%
女性	5	50%
回答なし	1	10%
合計	10	90%



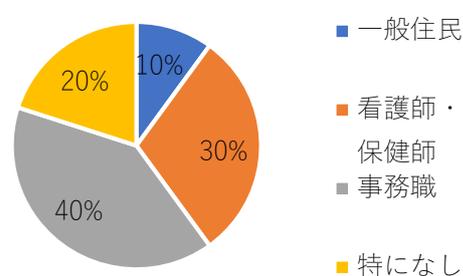
## 2. 年代

	n	%
30代	2	22%
40代	3	33%
50代	3	33%
60代	2	22%
合計	10	111%



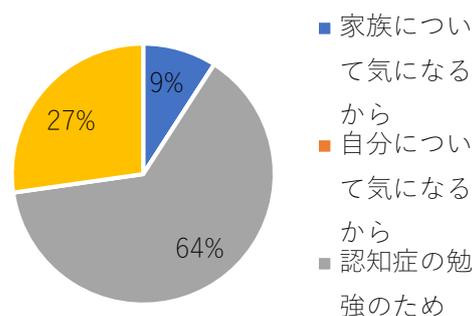
## 3. 職種

	n	%
一般住民	1	10%
看護師・保健師	3	30%
事務職	4	40%
特になし	2	20%
合計	10	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

	n	%
家族について気になるから	1	9%
自分について気になるから	0	0%
認知症の勉強のため	7	64%
その他	3	27%
合計	11	100%



### 問3 講演について

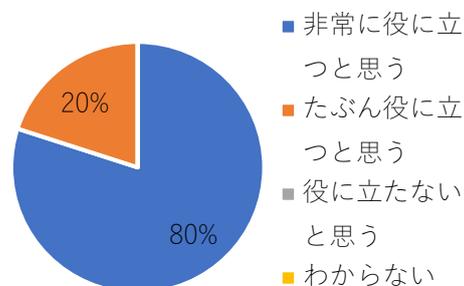
#### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	7	70%
大体理解できた	3	30%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	10	100%



#### (2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	8	80%
たぶん役に立つと思う	2	20%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	10	100%



#### 具体的内容

- ・ 認知症の一般的経過は、常識として知っておいてもらいたいです。
- ・ わからないより、少しでも理解できての方がよいと思った。
- ・ 家族と自分自身のことについても気を付けたり、知識として理解出来て良かったと思います。
- ・ 脳神経のドクターから検査の仕方・目的を聞いて参考になった。普段の身体検査と認知症の検査は全く別なことがわかったので家族にも一度検査をさせようと思った。
- ・ 認知症の人への対応、具体的な対応ポイント
- ・ 60～90代の高齢者がグループ就業を行なっています。軽度の認知症については、仲間がフォローし、実際に就業を行なえていると思いますが、症状が進んだ場合、シルバー人材センターとしての対応についてご指導いただきたいと思います。
- ・ 認知症が疑われる初期症状など具体的に説明がありわかりやすかった。
- ・ テストがすべてではないことなど住民の皆様にお伝えしたいと思いました。
- ・ 母親の接し方について参考になりました。
- ・ 認知症の方を目の前に感じていないので、今後の参考になればと・・・

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

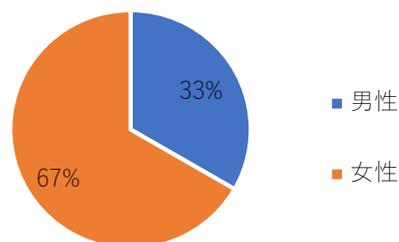
- ・ 早期の対応が重要と感じました。
- ・ 中々ない講習でしたので、参加できてよかったです。ありがとうございました。

### 3.1.1.3 研修③「認知症基礎講座」式根島地区

問1 ご自身のことについて教えてください

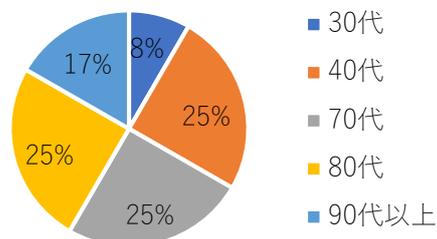
#### 1. 性別

	n	%
男性	4	33%
女性	8	67%
合計	12	100%



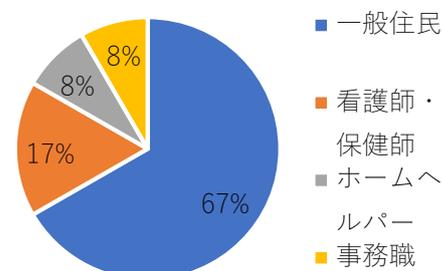
#### 2. 年代

	n	%
30代	1	8%
40代	3	25%
70代	3	25%
80代	3	25%
90代以上	2	17%
合計	12	100%



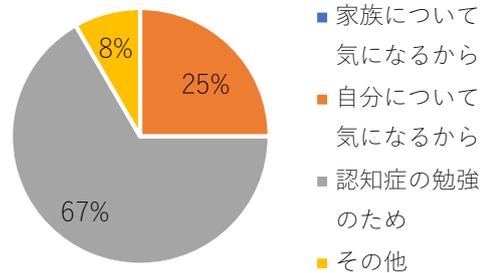
#### 3. 職種

	n	%
一般住民	8	67%
看護師・保健師	2	17%
ホームヘルパー	1	8%
事務職	1	8%
合計	12	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

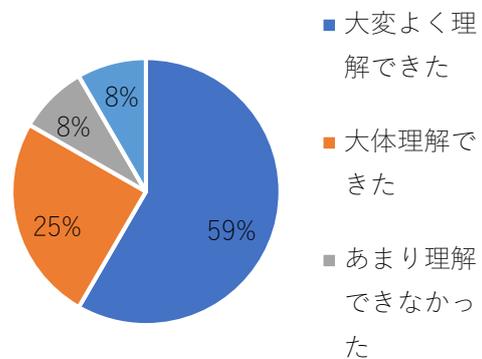
	n	%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	3	25%
認知症の勉強のため	8	67%
その他	1	8%
合計	12	100%



問3 講演について

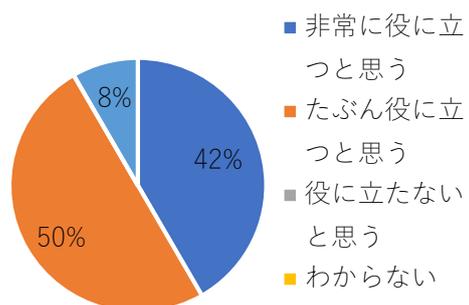
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	7	58%
大体理解できた	3	25%
あまり理解できなかった	1	8%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	5	42%
たぶん役に立つと思う	6	50%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



## 具体的内容

- ・ 講師はかみ砕いて話されたのですが話についていけない。理解できない。専門的だった。医学用語も難しい。
- ・ 自分が本当になった時、見てくれる人がいません。
- ・ 説明の仕方が少し早い。文字が小さ過ぎて読みにくい。
- ・ 文字が小さく見えにくかった。
- ・ 姉妹お互いに年を取り気を付けながら連絡をとりながら楽しく過ごせるようにしたいので参考にさせていただきます。
- ・ 認知症の方への接し方を説明される時、うなづかれたり、メモをとる方もいらっしやったので、ここに需要があるのかもと思いました。
- ・ 認知症の人への対応の心得「3つの『ない』」、住みよい地域づくりのため周知していきたいと思えます。
- ・ レカネマブなどの新しい薬について、良く理解が出来た。認知症の治療は薬だけでなく、家族や地域住民など周囲の人たちの対応の仕方が重要だと、参考となる講座だった。
- ・ 認知症の人への具体的な対応の7つのポイントが勉強になった。自分の家族などがなった場合や、周りに認知症の人がいたらこれをこころがけたい。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 健康寿命がよく話題になります。健康寿命を延ばすためにも認知症予防、フレイル予防の学習・対策が重要だと感じています。度々の講座開設をお願いします。
- ・ 大変わかりやすかったです。

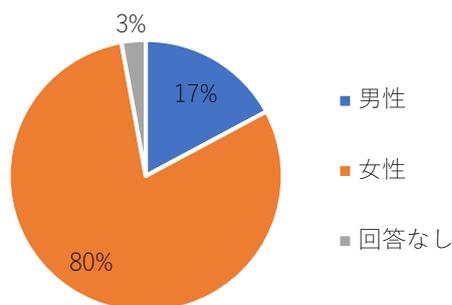
### 3.1.2 大島町で実施した研修の質の評価

#### 3.1.2.1 研修①「認知症基礎講座」

問1 ご自身のことについて教えてください

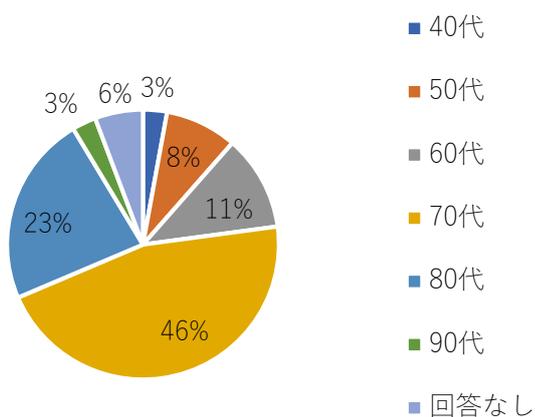
##### 1. 性別

	n	%
男性	6	17%
女性	28	80%
回答なし	1	3%
合計	35	100%



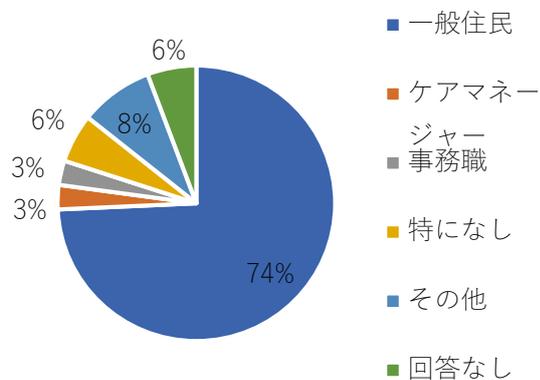
##### 2. 年代

	n	%
40代	1	3%
50代	3	9%
60代	4	11%
70代	16	46%
80代	8	23%
90代	1	3%
回答なし	2	6%
合計	35	100%



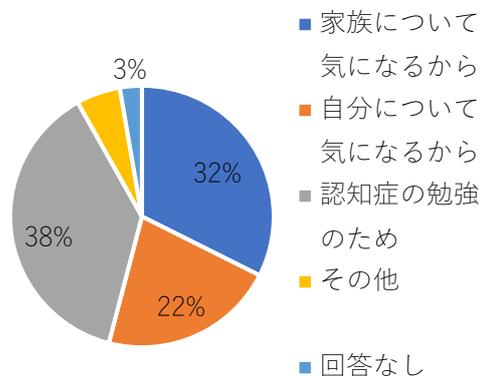
##### 3. 職種

	n	%
一般住民	26	74%
ケアマネージャー	1	3%
事務職	1	3%
特になし	2	6%
その他	3	9%
回答なし	2	6%
合計	35	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

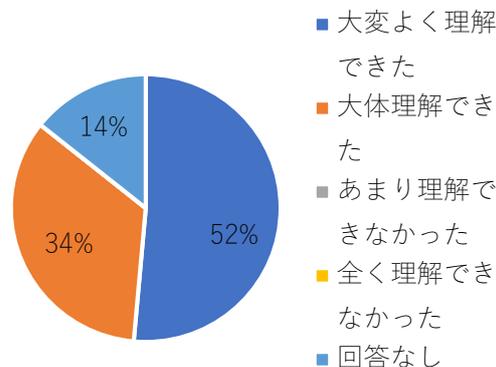
	n	%
家族について気になるから	12	32%
自分について気になるから	8	22%
認知症の勉強のため	14	38%
その他	2	5%
回答なし	1	3%
合計	37	100%



問3 講演について

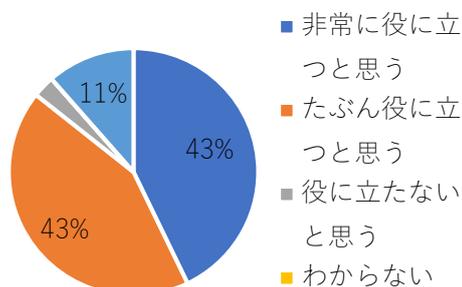
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	18	51%
大体理解できた	12	34%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	5	14%
合計	35	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	15	43%
たぶん役に立つと思う	15	43%
役に立たないと思う	1	3%
わからない	0	0%
回答なし	4	11%
合計	35	100%



具体的内容

- ・ 早期準備、早期対処、必要！
- ・ 認知症の人との付き合い方が少しわかりました。

- ・ 先生の説明はとてもわかりやすく勉強になりました。
- ・ 心と体の健康がとても大切なこと、改めて気付きました。
- ・ 82歳になり現在は認知症の心配はない？と思いますが、将来に向けて大変参考になりました。ありがとうございました。83歳になる夫に軽い症状が見られます。
- ・ ど忘れが多くなったり人や物の名前を忘れやすくなった。この二点が心配でしたのでとても参考になりました。
- ・ 認知症、本人に対する接し方、頭では分かっていたつもりだけれど対面では冷静さを失ってしまうことが多い。今日学んだことを、もう一度頭に入れて対応していきたい。自分にとっても、今後来た時に、心構えをできると思う。
- ・ 認知症の親への接し方を、少し改めたくはあります。
- ・ 9年アルツハイマーの夫を介護しています。大体、正しいやり方をしていると思った。
- ・ ①同居する親へのサポート②NGワードやアクション
- ・ さっき言ったことをまたすぐ聞いてきたり何度言ってもわかってくれないことでイライラしてしまっていますが、認知症がそういう病気なんだと自分に心の余裕をもとうと思いました。
- ・ 資料があって良かった。（うちに帰ってもう一度思い出せる）
- ・ 今看ているおばさん(90歳) 一人暮らし、時々上京で健康他精神面で確認しています。お話を聞くことでこれからの参考にしたいです。
- ・ 説明の仕方も勉強になりました。
- ・ 現在の自分はかなり思い当たっていました。72歳で自分が感じている。軽度認知症にあたる。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 認知症になっても家族が幸せに暮らせたなら幸せだと思いました。これから年を重ねていっても「穏やかな気持ちで送れる生活」に向かっていけたらと・・・。
- ・ 医療センターにはもの忘れ外来がないので、月一でも島外から専門の先生にいらしていただけたらと思います。
- ・ 今日はありがとうございました。76歳を迎えてもの忘れなど増えて自分で気付かないうちに認知症になっていたらという不安をもっていますが、今日のお話を参考に生活していきたいと思います。
- ・ ありがとうございました。短い時間でしたが、とても分かりやすく、良かったです。難しいとは思いますが次は事例など聞かせてもらえるとよいかと思います。
- ・ 一人で住む親を、初期の親を、どうしていけば良いのか不安でしかありません。周りの方に迷惑をかけないようにどうして良いのか、本人の気持ちと合わせていくにはどうしたら良いのか不安です。
- ・ アルツハイマーの本人が社会の支援を受けたがらないので、100%妻の私が介護している。デイサービスやショートに行くようにすすめる秘策はあるでしょうか？
- ・ 特になし
- ・ いつもありがとうございます。次も楽しみにしています。

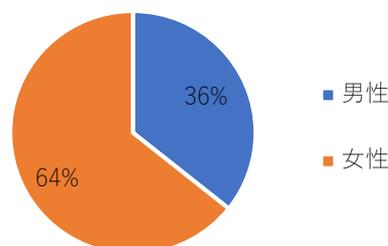
- ・ つい出来ないことに目を向けてしまう。そして問いつめてしまう。良くないとされていることばかりしてしまっていた・・・。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 自営業を営んでおります。最近高齢のお客様が多く、時には店で突然怒り出す方もいて対応に困惑する場面もあります。また、一緒に過ごす 90 歳の義母や、離れて暮らす両親の事を思い参加させていただきました。大変参考になりました。ありがとうございました。内容もとてもわかりやすかった。声・話すスピード・イントネーションすべてが心地よかったです。講座を聴く機会をありがとうございました。
- ・ 優しくとても聞きやすい、わかりやすい講話でした。ありがとうございました。障害の進行、見当識は初めて学びました。進行しても大切な人である事がわかっていると思える事は何か嬉しいことです。ウルウルしました。「穏やかな気持ちで送れる生活」大切ですね。本人も周囲も。大島の社会資源、ありがたい事です。またよろしく願いいたします。
- ・ ありがとうございました。

### 3.1.2.2 研修②「集団療法のススメ方」

問 1 ご自身のことについて教えてください

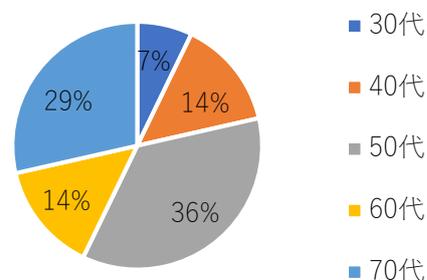
#### 1. 性別

	n	%
男性	5	36%
女性	9	64%
合計	14	100%



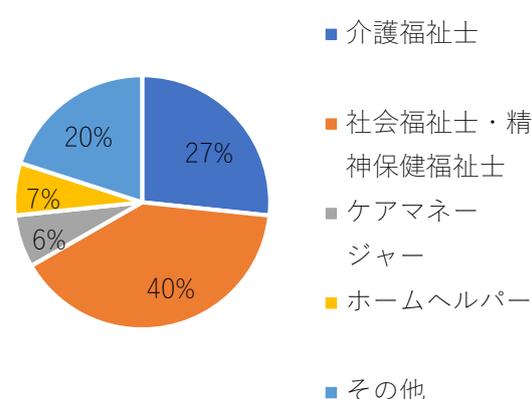
#### 2. 年代

	n	%
30代	1	7%
40代	2	14%
50代	5	36%
60代	2	14%
70代	4	29%
合計	14	100%



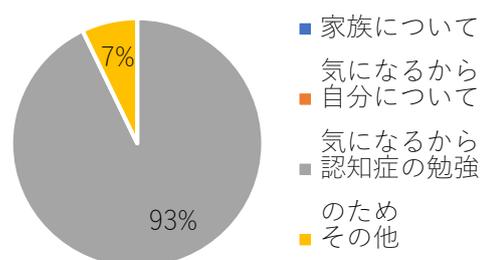
### 3. 職種 ※複数回答あり

	n	%
介護福祉士	4	27%
社会福祉士・精神保健福祉士	6	40%
ケアマネージャー	1	7%
ホームヘルパー	1	7%
その他	3	20%
合計	15	100%



#### 問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

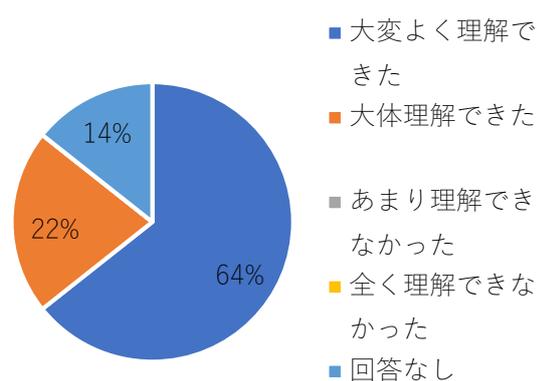
	n	%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
認知症の勉強のため	13	93%
その他	1	7%
合計	14	100%



#### 問3 講演について

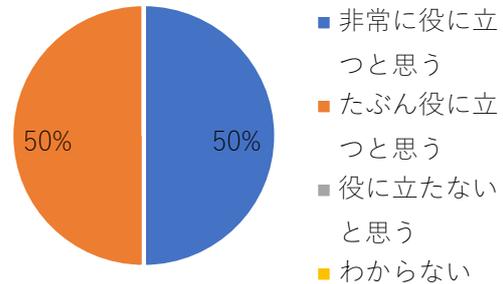
##### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	9	64%
大体理解できた	3	21%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	14%
合計	14	86%



## (2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	7	50%
たぶん役に立つと思う	7	50%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	14	100%



### 具体的内容

- ・ デイサービスへの参加を促す際の根拠になるので、良い学びとなりました。
- ・ 講師の方のように優しい口調を心がけたい。
- ・ 笑顔が出るような楽しみにつながるような場をつくりたい。独りではないと思える場であるという意識をもっていただくことの大切さ。
- ・ 実際集団療法をする場面（デイサービスなど）は業務の中ではないが、認知症の対応としてはどの種類の認知症なのか見極めての対応は参考になりました。導入のアセスをとる時などご本人から回想法など取り入れてコミュニケーションをとっていききたい。
- ・ 認知症の症状について見守り訪問時にとても役立つものでした。
- ・ 業務内容進行の見直しになった。
- ・ デイサービスでの活動に役立つと思いました。

### 問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ とてもわかりやすくなる講義をありがとうございました。普段の介護や音楽療法の場で活用させていただきたいと思いました。
- ・ 回想法良いですね。モニタリング時に、昔の話を取り入れていこうと思います。ありがとうございました。
- ・ デイサービスを利用される方が楽しく、有意義に過ごせるように考えていくための情報として整理できました。
- ・ あらためて見直すことができました。
- ・ 講師の方の話し方が聞きやすく良かったです。ありがとうございました。

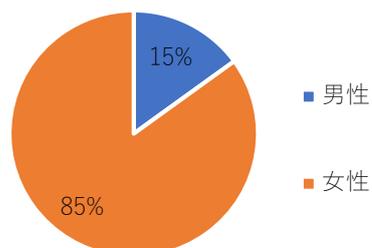
### 3.1.3 三宅村で実施した研修の質の評価

#### 3.1.3.1 研修「認知症ケアの基本について」

問1 ご自身のことについて教えてください

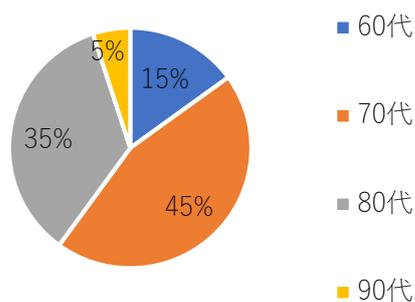
##### 1. 性別

	n	%
男性	3	15%
女性	17	85%
合計	20	100%



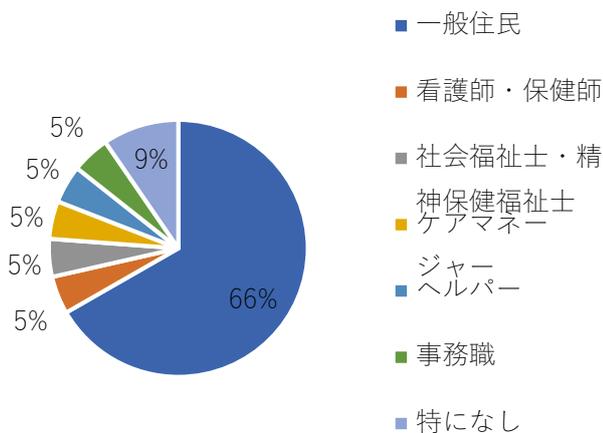
##### 2. 年代

	n	%
60代	3	15%
70代	9	45%
80代	7	35%
90代	1	5%
合計	20	100%



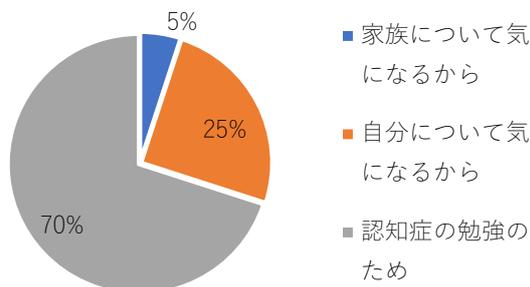
##### 3. 職種（複数回答可）

	n	%
一般住民	14	70%
看護師・保健師	1	5%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	5%
ケアマネージャー	1	5%
ヘルパー	1	5%
事務職	1	5%
特になし	2	10%
合計	21	105%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

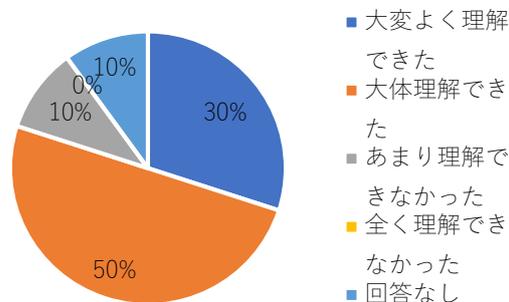
	n	%
家族について気になるから	1	5%
自分について気になるから	5	25%
認知症の勉強のため	14	70%
合計	20	100%



問3 講演について

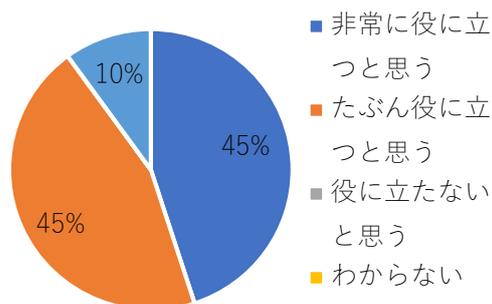
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	6	30%
大体理解できた	10	50%
あまり理解できなかった	2	10%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	10%
合計	20	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	9	45%
たぶん役に立つと思う	9	45%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	2	10%
合計	20	100%



## 具体的内容

- ・ わからない子供と一緒に聞けたらいいと思う
- ・ 先生のお話が心地よく、頭や心にスーッと入ってきました。ありがとうございました。
- ・ お友達に認知症だと思われる方いるので
- ・ 認知症ケアの基本についてよく読んで勉強したいと思います。
- ・ 今後の生活内容に役立てていきたい
- ・ これからの人生の指針になりました。ありがとうございました。
- ・ 安心できるコミュニケーション・質の良いコミュニケーション

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ "困りごと（本人や周囲（家族・近所））が目の前にあり、「そうか」と思うことをお聞きできました。
- ・ アルツ認知症の方と身近な接触で、私が不安・不眠になりました。どう逃げたらいいでしょうか。何回もお聞きして学びたいことでした。
- ・ 本日はありがとうございました。
- ・ 高齢は難聴が多いから、声を大きくはっきりとお願いします。

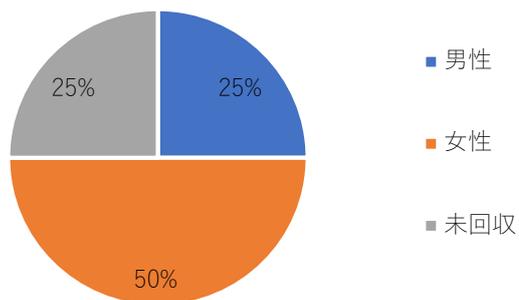
### 3.1.4 檜原村で実施した研修の質の評価

#### 3.1.4.1 研修「せん妄・せん妄ケア」

問 1 ご自身のことについて教えてください

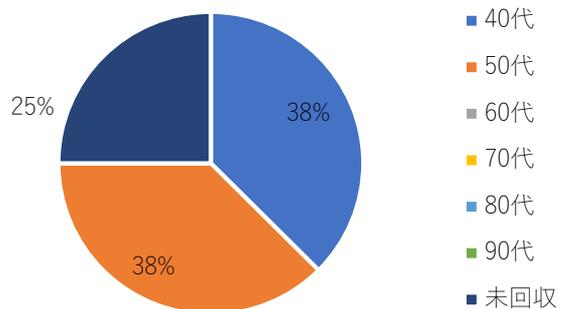
##### 1. 性別

	n	%
男性	2	25%
女性	4	50%
未回収	2	25%
合計	8	100%



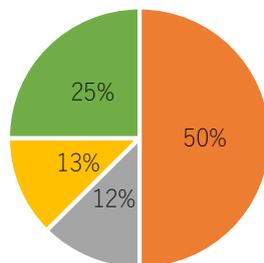
##### 2. 年代

	n	%
40代	3	38%
50代	3	38%
60代	0	0%
70代	0	0%
80代	0	0%
90代	0	0%
未回収	2	25%
合計	8	100%



### 3. 職種（複数回答可）

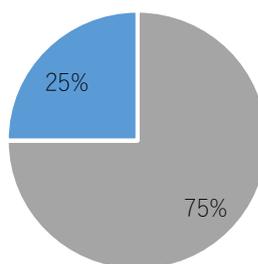
	n	%
一般住民	0	0%
看護師・保健師	4	50%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	13%
ケアマネージャー	1	13%
ヘルパー	0	0%
事務職	2	25%
合計	8	100%



- 一般住民
- 看護師・保健師
- 社会福祉士・精神保健福祉士
- ケアマネージャー
- ジャー
- ヘルパー
- 事務職

### 問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

	n	%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
認知症の勉強のため	6	75%
その他	0	0%
回答なし	2	25%
合計	8	100%



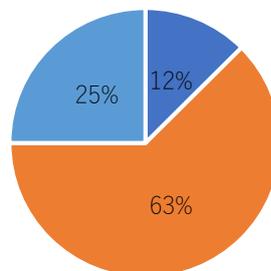
- 家族について気になるから
- 自分について気になるから
- 認知症の勉強のため
- その他
- 回答なし

### 問3 講演について

#### 1. せん妄

##### (1) 講師の説明は理解できましたか？

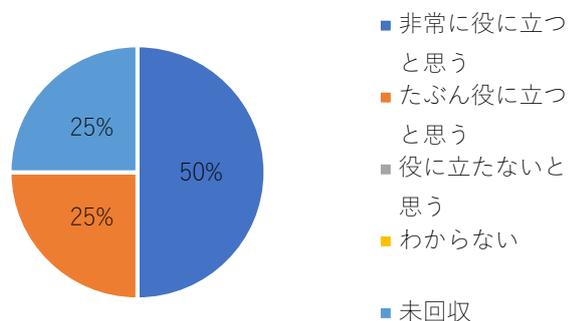
	n	%
大変よく理解できた	1	13%
大体理解できた	5	63%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
未回収	2	25%
合計	8	100%



- 大変よく理解できた
- 大体理解できた
- あまり理解できなかった
- 全く理解できなかった
- 未回収

## (2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	4	50%
たぶん役に立つと思う	2	25%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
未回収	2	25%
合計	8	100%



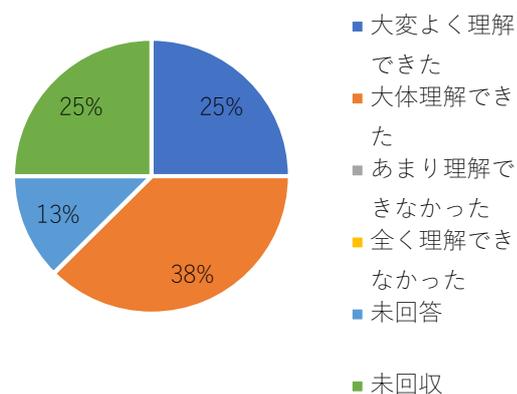
## (3) 具体的内容

- ・ せん妄について住民向けの研修会を開催していきたい
- ・ 診療所でも患者さんに出している薬の名前があったので気をつけたいと思いました
- ・ せん妄の原因を3つの因子に分けて考えるという事がわかったので参考にしていきたい

## 2. せん妄ケア

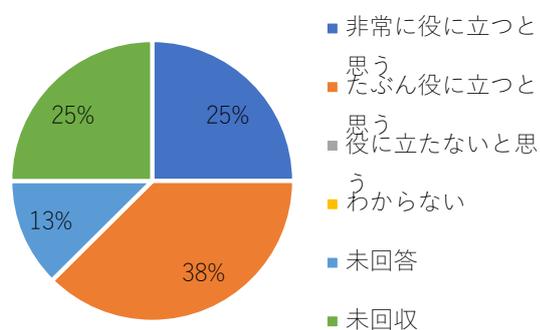
### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	2	25%
大体理解できた	3	38%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
未回答	1	13%
未回収	2	25%
合計	8	100%



## (2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	2	25%
たぶん役に立つと思う	3	38%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
未回答	1	13%
未回収	2	25%
合計	8	100%



## (3) 具体的内容

- ・ せん妄への気づきが大切
- ・ せん妄・認知症は区別がつけづらく、併存していることもよくあるという事がわかりました。普段とは違う様子が見られたら、その原因について考え、直接因子や誘発因子をできるだけ減らせるように努めたいと思いました。
- ・ 薬剤を分包して出した時に朝昼夜と色分けするので色に注意したいと思いました
- ・ せん妄の時の記憶があるということを知ったので、接する時の姿勢に気をつけて行きたいと感じた。

## 問4 意見・要望

- ・ 事例を取り入れてほしい

## 3.2 オンラインによる研修の質の評価

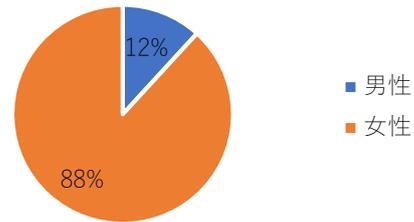
### 3.2.1 大島町で実施した研修の質の評価

#### 3.2.1.1 研修「認知症について学ぼう」

問1 ご自身のことについて教えてください

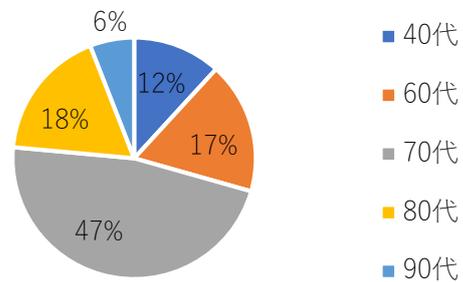
##### 1. 性別

	n	%
男性	2	12%
女性	15	88%
合計	17	100%



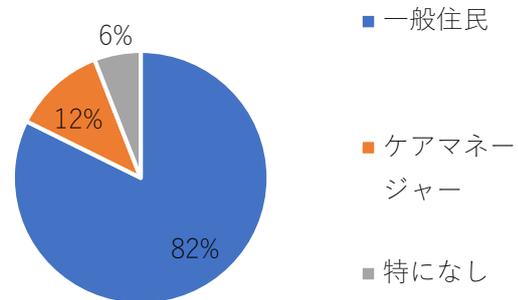
##### 2. 年代

	n	%
40代	2	12%
60代	3	17%
70代	8	47%
80代	3	18%
90代	1	6%
合計	17	100%



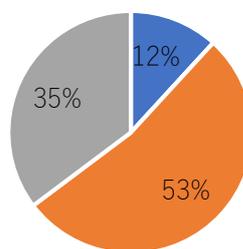
##### 3. 職種

	n	%
一般住民	14	82%
ケアマネージャー	2	12%
特になし	1	6%
合計	17	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

	n	%
家族について気になるから	2	12%
自分について気になるから	9	53%
認知症の勉強のため	6	35%
その他	0	0%
合計	17	100%

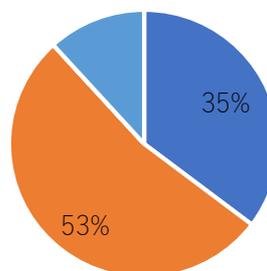


- 家族について  
気になるから
- 自分について  
気になるから
- 認知症の勉強  
のため
- その他

問3 講演について

(1) 講師の説明は理解できましたか？

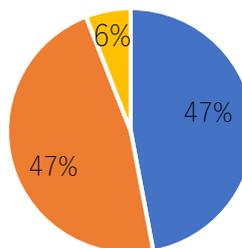
	n	%
大変よく理解できた	6	35%
大体理解できた	9	53%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	12%
合計	17	100%



- 大変よく理解  
できた
- 大体理解でき  
た
- あまり理解で  
きなかつた
- 全く理解でき  
なかつた
- 回答なし

(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	8	47%
たぶん役に立つと思う	8	47%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	1	6%
合計	17	100%



- 非常に役に立  
つと思う
- たぶん役に立  
つと思う
- 役に立たない  
と思う
- わからない

具体的内容

- ・ 学んだ内容はほとんどやっている。
- ・ 長生きは良くない。
- ・ 誰でも少なからず年齢と共に起こる病気であると認識出来ました。少しでも先延ばし出来る様、日々明るく元気な体を保つ様にしたいと思います。
- ・ 自分の症状の様子が分かる、認知症の人の対応の仕方、認知症にならない為の具体策。
- ・ 資料を持ち帰り他の人に内容を知ってもらう事。

- ・ 話を聞いて気になる部分や納得する部分もあり、毎日の生活の中で気にしながら過ごしていきたいと思います。
- ・ 認知症に気づききっかけになると思います。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 早く良い薬が安価で求められる事を祈る
- ・ 認知症の人がこれからどうなるか少し理解できた。主人は私にみてもらえるが、私は誰が見てくれるのか将来が不安。
- ・ 島内でも交通の便がかなり悪い方もいらっしゃると思います。出来る事なら各地区ごとでこの様な講演会を開いて頂ければ嬉しく思います。
- ・ とてもわかりやすかったです。
- ・ 健康診断の時に認知症チェックを入れてほしい。

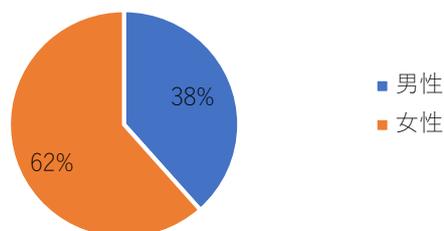
### 3.2.2 利島村で実施した研修の質の評価

#### 3.2.2.1 研修「認知症について学ぼう」

問1 ご自身のことについて教えてください

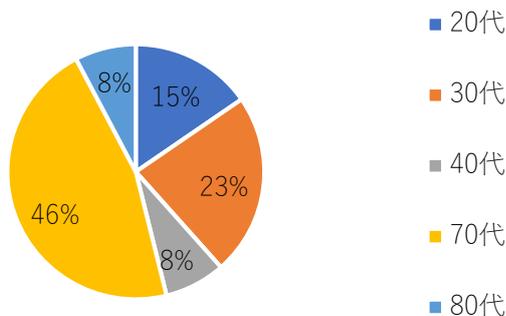
##### 1. 性別

	n	%
男性	5	38%
女性	8	62%
合計	13	100%



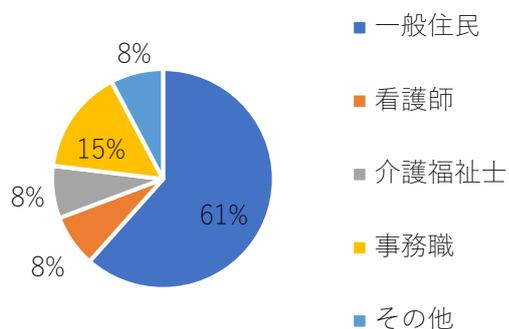
##### 2. 年代

	n	%
20代	2	15%
30代	3	23%
40代	1	8%
70代	6	46%
80代	1	8%
合計	13	100%



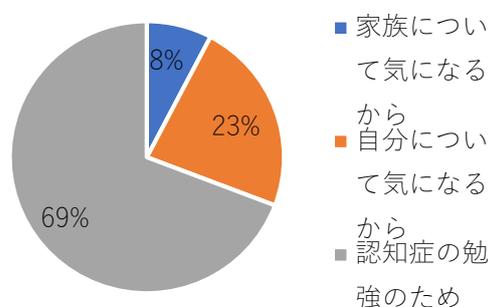
### 3. 職種

	n	%
一般住民	8	61%
看護師	1	8%
介護福祉士	1	8%
事務職	2	15%
その他	1	8%
合計	13	100%



#### 問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

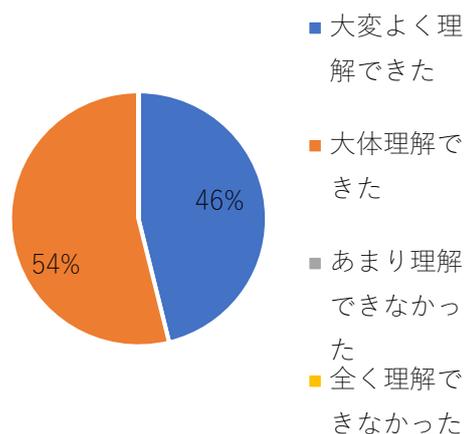
	n	%
家族について気になるから	1	8%
自分について気になるから	3	23%
認知症の勉強のため	9	69%
その他	0	0%
合計	13	100%



#### 問3 講演について

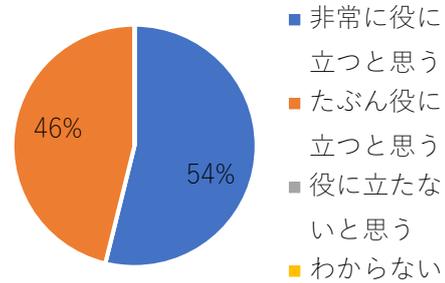
##### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	6	46%
大体理解できた	7	54%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	0	0%
合計	13	100%



## (2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	7	54%
たぶん役に立つと思う	6	46%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	13	100%



### 具体的内容

- ・ 認知症の勉強のために参加したのだが、家族や自身、地域の住民に対して等、身近なことだと改めて認識できた。
- ・ 認知症予防のために、生活習慣病予防を行っていくことや、中年期から気をつけることで3~4割も予防できることは、住民の方へ広げていきたいと思いました。
- ・ 親が高齢になってきているので、どのような症状が出たら気をつけた方がいいのか、実際に認知症になったらどう対応すればいいのか、理解できて勉強になりました。
- ・ 早期発見できるように頑張ります。ありがとうございました。

### 問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ ご丁寧な講演会をありがとうございました。質問の際に具体的な行動等が話題にあがりわかりやすかったです。ただ、もっと個人的な質問をしたかった人もいるだろうから、顔を合わせた相談会ができると良いと思いました。今回受講した住民は、来年オンラインとなると参加が厳しいかもと思いました。
- ・ 講演が録画であると、せっかくオンラインで繋いでいてもリアル感が薄くなってしまいました。
- ・ 認知症の予防方法や関わり方も知ることができ、参考になりました。
- ・ 住民向けの講座としては、難しく感じました。小笠原村の住民の方からもご意見がありました。
- ・ 普段の生活の中で気を付けること…食事はバランス良く 運動、おしゃべり、人とのつながり 足の筋肉をしっかり 睡眠の大切さをもっと聞きたいです。

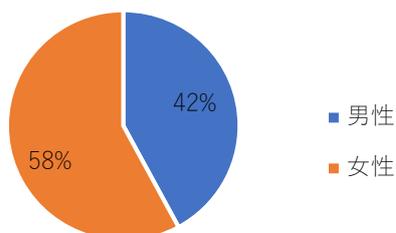
### 3.2.3 小笠原村で実施した研修の質の評価

#### 3.2.3.1 研修「認知症について学ぼう」

問1 ご自身のことについて教えてください

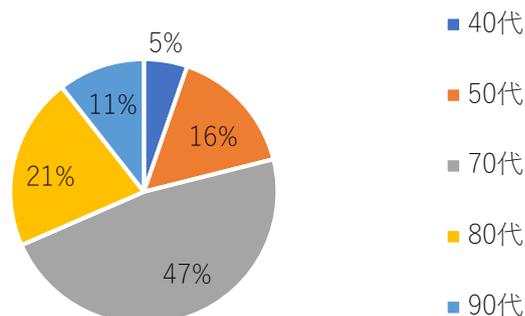
##### 1. 性別

	n	%
男性	8	42%
女性	11	58%
合計	19	100%



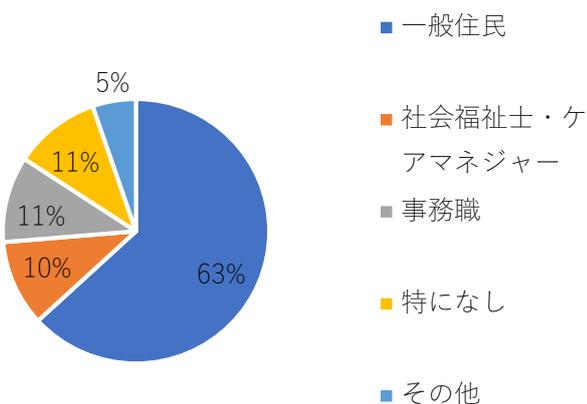
##### 2. 年代

	n	%
40代	1	5%
50代	3	16%
70代	9	47%
80代	4	21%
90代	2	11%
合計	19	100%



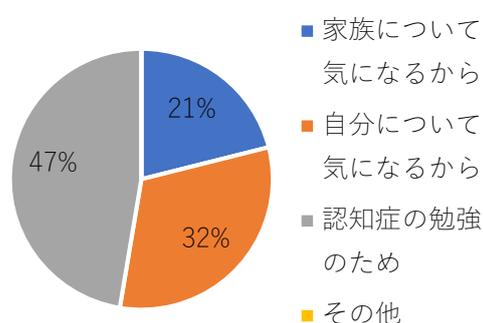
##### 3. 職種

	n	%
一般住民	12	63%
社会福祉士・ケアマネジャー	2	11%
事務職	2	11%
特になし	2	11%
その他	1	5%
合計	19	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

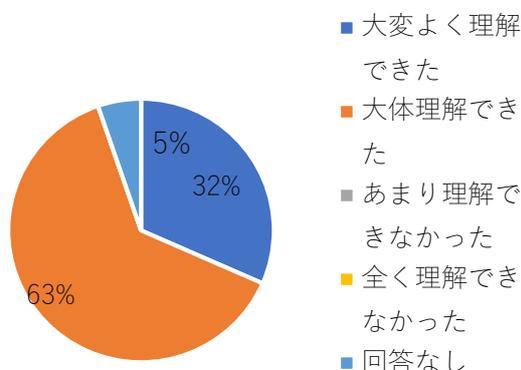
	n	%
家族について気になるから	4	21%
自分について気になるから	6	32%
認知症の勉強のため	9	47%
その他	0	0%
合計	19	100%



問3 講演について

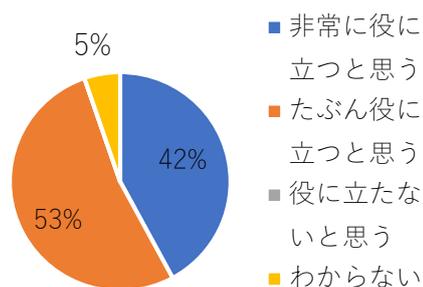
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	6	32%
大体理解できた	12	63%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	5%
合計	19	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	8	42%
たぶん役に立つと思う	10	53%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	1	5%
合計	19	100%



具体的内容

- ・ 主人が血管性認知症に今年なりました。勉強になりました。私も74才で糖尿病がありますので気を付けます。
- ・ 高齢者になれば誰でも認知症になるという、普段からの自覚・心得が必要と感じました。
- ・ 離れて住む両親が共に80歳を超えて、そろそろ心配なところが出始めてきているので、少しずつ知っておいて備えることが必要だと思っています。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 若い40代から90代の方まで参加してもらい、思った以上に認知症に対する意識を持ってもらえてるんだと感じました。今回、出港中の昼一番だったので、開催のタイミングも丁度良かったのではと思いました。
- ・ たくさんの住民の方が参加されていて、みなさんの認知症への関心の高さが感じられました。村の介護予防事業として体操教室がありますが、他にもなにかできることはないかなと思いました。
- ・ 大変かもしれないが、これからは時間を作って勉強していくことが大事だと思います。両親のことだけでなく自分自身のことでもあるので、よい機会をありがとうございました。

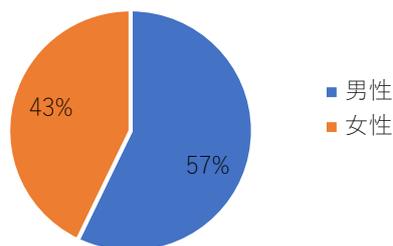
### 3.2.4 新島村で実施した研修の質の評価

#### 3.2.4.1 研修「認知症について学ぼう」

問1 ご自身のことについて教えてください

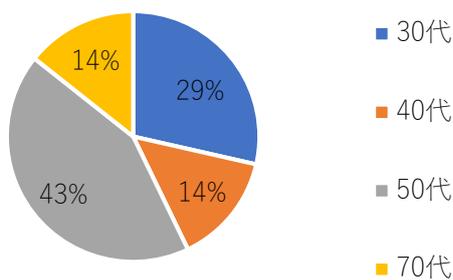
##### 1. 性別

	n	%
男性	4	57%
女性	3	43%
合計	7	100%



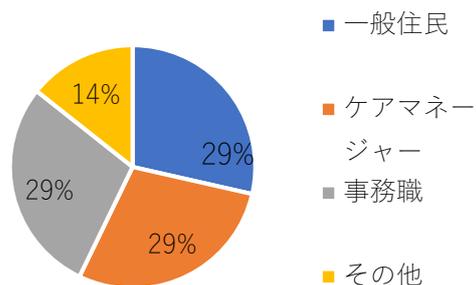
##### 2. 年代

	n	%
30代	2	29%
40代	1	14%
50代	3	43%
70代	1	14%
合計	7	100%



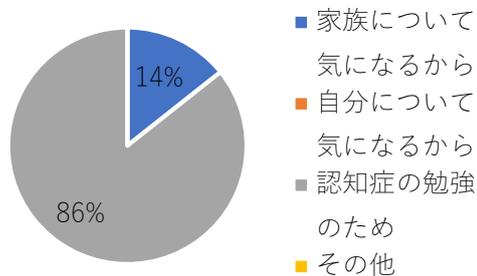
### 3. 職種

	n	%
一般住民	2	29%
ケアマネージャー	2	29%
事務職	2	29%
その他	1	13%
合計	7	100%



#### 問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

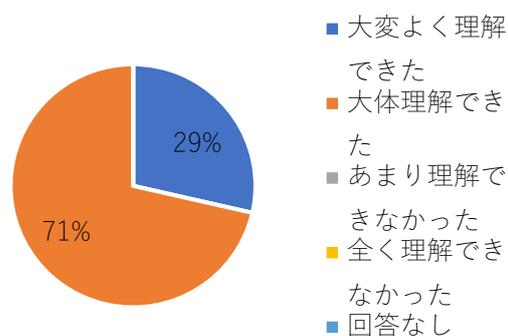
	n	%
家族について気になるから	1	14%
自分について気になるから	0	0%
認知症の勉強のため	6	86%
その他	0	0%
合計	7	100%



#### 問3 講演について

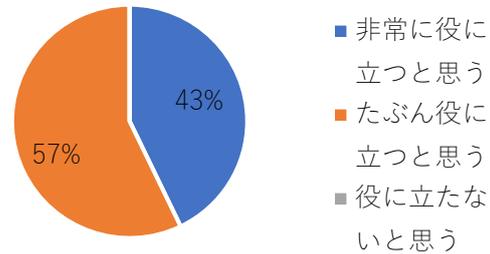
##### (1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	2	29%
大体理解できた	5	71%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	0	0%
合計	7	100%



## (2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	3	43%
たぶん役に立つと思う	4	57%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	7	100%



### 具体的内容

- ・ 病状説明について再認識はできていたかと思います。八丈の人の話を聞いて、切実な思いに応えられるよう支援対策を構築したいと思いました。
- ・ 仕事上、ある程度の理解はしていたが、改めて認知症予防に必要な事など参考になりました。
- ・ 家族や友人が認知症になったときに対する心がまえができました。
- ・ 家族が元気なうち、本人の介護の意向を話し合っておく必要があると理解できました。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 定期的にセミナー等があれば、もっと住民に認知症についての知識等、理解が深まっていくと感じました。
- ・ 仕事の合間での参加でしたので zoom は参加しやすかったです。もう少し事例があると分かりやすかったのかなと思いました。(家族や地域の対応の仕方など)
- ・ もう少し実例を出していただけたいと思います。&その例に対する対応(処置?)について。もっと多くの方に参加してもらいたい。(多くの方が直面していることなので)相談時間をもう少し設けていただけたら、同じ悩みを持つ方の参考になると思います。
- ・ 質疑応答(個別事例相談)の時、ご本人やご家族のデリケートな話があり、こちらが聞いても大丈夫かな?と思いました。他者が聞こえない環境、先生と相談者がマンツーマンで話せる web ミーティングの整備があった方が良いと思いました。相談者ももっと話しやすくなると思います。

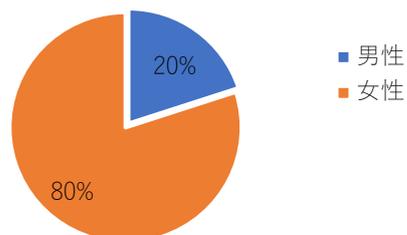
### 3.2.5 八丈町で実施した研修の質の評価

#### 3.2.5.1 研修「認知症について学ぼう」

問1 ご自身のことについて教えてください

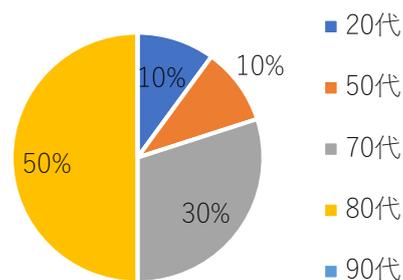
##### 1. 性別

	n	%
男性	2	20%
女性	8	80%
合計	10	100%



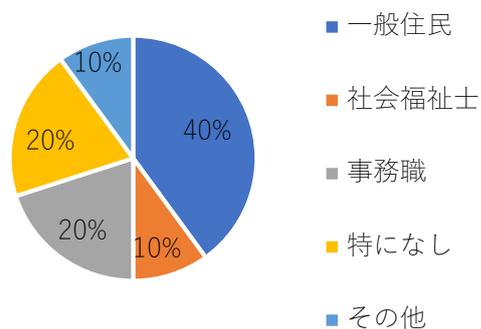
##### 2. 年代

	n	%
20代	1	10%
50代	1	10%
70代	3	30%
80代	5	50%
90代	0	0%
合計	10	100%



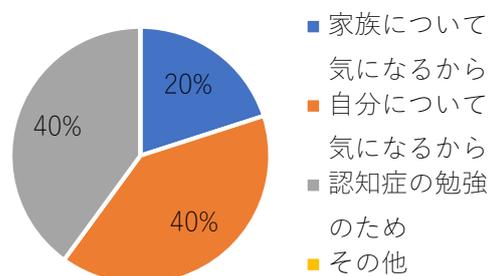
##### 3. 職種 ※複数回答あり

	n	%
一般住民	4	40%
社会福祉士	1	10%
事務職	2	20%
特になし	2	20%
その他	1	10%
合計	10	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

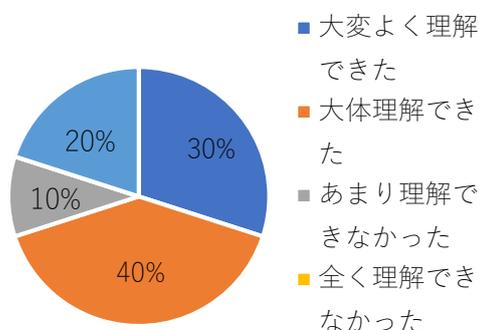
	n	%
家族について気になるから	2	20%
自分について気になるから	4	40%
認知症の勉強のため	4	40%
その他	0	0%
合計	10	100%



問3 講演について

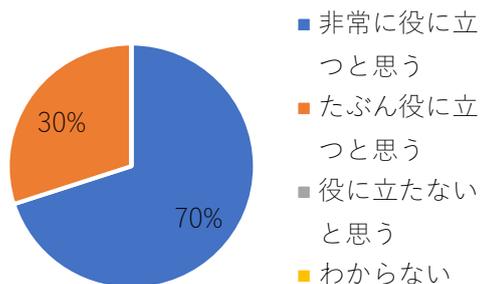
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	3	30%
大体理解できた	4	40%
あまり理解できなかった	1	10%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	20%
合計	10	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	7	70%
たぶん役に立つと思う	3	30%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	10	100%



具体的内容

- ・ 「認知症の人と接するときの心がまえ」を今後、仕事でも日常生活でも意識して、認知症の人と接していきたいなと思いました。
- ・ 資料の字が小さすぎてつらい（特にP1）、机がほしいと感じた、質疑時の準備をしておいた方がよかった。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 認知症についてかなり詳しく説明されていたので、今回の内容が若い世代の人にも見てもらえるといののかなと感じました。大学生くらいの人達が聞いても聴きごたえがある内容だったと思います。
- ・ パーキンソン病の人は必ずレビー小体型認知症になるのか知りたいです。
- ・ とても良く説明して下さいました。今後、家族の会、レビー小体等考えていきたいです。
- ・ すみません耳が悪いので（マスクで、画面で話されることがあまり聞き取れなくて）あまり理解できなかったです。それでも少しでもお話し伺いたく参加いたしました。プリントもありがたく、今から見直します。
- ・ 質疑応答時、パソコンが上手く機能しなかったことが残念でした。
- ・ 最近物忘れ（特に人の名前が覚えられず）数分前に話していた事も忘れてしまい困っています。近々病院で診てもらおうかと思っています。

## 4 島しょ地域認知症医療サポート事業の実施

---

### 4.1 目的

島しょ地域の認知症医療の課題として、専門職の流動性の高さ、対象者の絶対数が少ないためスキルを蓄積することの難しさ等があり、認知症に専門性が高い専門職の確保が難しいということがある。

現在、東京都の二次保健医療圏のなかで唯一島しょ二次保健医療圏には認知症疾患医療センターは設置されていない。認知症初期集中支援チームチームに関しては、設置が進められているが、設置要件である認知症サポート医の安定的な確保が難しい。

このような状況から、平成30年に、東京都の島しょ地域における認知症医療の支援体制の構築を支援する事業が開始された。この事業は、東京都健康長寿医療センターが東京都から受託して、島しょ二次保健医療圏の、認知症初期集中支援チーム等を含む認知症支援に関わる職種・機関を対象として、認知症の診断や治療、ケア等に係る相談支援と、認知症初期集中支援チームの活動支援を行う、「島しょ地域認知症医療サポート事業」を開始した。令和元年（平成31年）からは、檜原村も対象地域となった。

さらに、令和6年度からは、島しょ地域等における認知症支援に関する現状や課題を東京都および二次保健医療圏内で共有し、認知症と共に生きる人とその家族の支援体制の充実を図るため、東京都、島しょ二次保健医療圏を構成する自治体および檜原村の、医療・保健・介護従事者および行政職員が一同に会する「島しょ地域等との認知症支援に関する意見交換会（情報交換会）」を開始した。

### 4.2 認知症の診断および治療等に関わる相談支援

#### 4.2.1 事業概要

「認知症の診断および治療等に係る相談支援」では、東京都健康長寿医療センター認知症疾患医療センターに所属する認知症専門医、精神保健福祉士（PSW）、公認心理師からなる多職種チームが、事業対象自治体の医療従事者から寄せられる認知症の診断や治療、ケア等に関する相談に応需し、多職種チームによる多角的観点から、コンサルテーションを行うもので、必要に応じて適切な医療機関等に関する情報提供や連携支援も提供する。

#### 4.2.2 事業の実施

認知症の診断及び治療等に係る相談支援を利用した町村は1か所、相談事例の件数は1件であった。電話で村の相談者から連絡があり、当センターのPSWが相談を応需した。概要は以下の表のとおりである。

表 相談支援の概要

	相談者	相談内容	結果
小笠原村	診療所	入院や今後の処遇に関する相談	内地に入院後、当センターへの転院の支援を行った。

### 4.3 認知症初期集中支援チームの活動支援

#### 4.3.1 事業概要

「認知症初期集中支援チームの活動支援」では、認知症初期集中支援チームからの依頼に基づき、東京都健康長寿医療センター認知症疾患医療センターに所属する認知症専門医とPSW、公認心理師からなる多職種チームが、認知症初期集中支援チーム員会議に参加した。会議では、事例検討等を行った。また、活動支援の一環として、認知症初期集中支援チーム員研修等の研修を実施した。

#### 4.3.2 事業の実施

認知症初期集中支援チームの活動支援の概要は以下の表のとおりである。

表 認知症初期集中支援チーム支援の概要

町村名	開催日	所要時間	島の参加者・所属・職種	センターの参加職種	ケース数	相談の概要
神津島村	2025/01/27	35分	役場職員	医師、精神保健福祉士、公認心理師		相談事例なし 神津島村の認知症支援の現状と課題に関する報告と、昨年度事例相談にあげられた高齢男性のその後の経過についての共有
八丈町	2025/02/06	70分	役場職員、地域包括支援センター社会福祉士・看護師・ケアマネジャー、居宅介護支援事業所ケアマネジャー	医師、精神保健福祉士、公認心理師、研究員	3件	1)幻覚妄想に左右された言動のある高齢女性への対応についての相談 2)自宅で入浴を拒否する高齢女性への対応についての相談 3)身元保証人のいない高齢男性が入院手術する際の手続きについての相談
青ヶ島村	2025/02/10	45分	役場職員	医師、精神保健福祉士、公認心理師、研究員	1件	1)生活保護を受給しながらひとり暮らしをするも、金銭管理に課題がある認知症の男性の対応についての相談
小笠原村	2025/02/13	60分	役場職員・保健師・ケアマネジャー	医師、公認心理師		地域の実情に応じて行う認知症サポート検診事業の実施に関する相談
御蔵島村	2025/02/20	30分	役場職員	医師、公認心理師		相談事例なし 御蔵島の認知症支援の現状と課題に関する報告
小笠原村	2025/02/21	30分	役場職員、保健師	医師、公認心理師、研究員		相談事例なし 父島、母島それぞれの認知症支援の現状と、昨年度事例相談にあげられた高齢男性2名のその後の経過についての共有
利島村	2025/02/21	40分	役場職員・保健師・社会福祉士、ケアマネジャー	医師、公認心理師、研究員		相談事例なし 利島村の認知症支援の現状と課題に関する報告

## 4.4 島しょ地域等との認知症支援に関する意見交換会

### 4.4.1 事業概要

「島しょ地域等との認知症支援に関する意見交換会」は、島しょ地域等における認知症支援に関する現状や課題を東京都および二次保健医療圏内で共有し、認知症と共に生きる人とその家族の支援体制の充実を図るため、東京都、島しょ二次保健医療圏を構成する自治体および檜原村の、医療・保健・介護従事者および行政職員が一同に会する「島しょ地域等との認知症支援に関する意見交換会（情報交換会）」を実施した。

### 4.4.2 事業実施

第一回の意見交換会では、本事業の概要について都から説明を行い、認知症支援推進センターからは、島しょ等地域の認知症医療サポート事業の活用例を紹介した。第二回の意見交換会では、八丈町及び認知症支援推進センターから本事業活用例を提示した後に、意見交換を実施した。

---

#### 意見交換会①

---

実施日	令和6年4月25日
会場	オンライン
時間	10:30～11:15
内容	事業概要、事業の活用方法および活用例について
対象	行政職員、専門職
出席者数	58名

---

---

#### 意見交換会②

---

実施日	令和6年11月15日
会場	オンライン
時間	16:10～17:10
内容	八丈町およびセンターからの話題提供、意見交換
対象	行政職員、専門職
出席者数	78名

---

## 5 考察

---

### 1. はじめに

今年度の島しょ等地域認知症支援事業における訪問対象自治体は、新島村、大島町、三宅村、檜原村であった。本項では主として、関係者ミーティング（フォーカスグループ・ディスカッション：FGD）で議論された内容から、認知症支援の課題や各地域の実践について考察する。

### 2. 独居高齢者の支援に関する課題

関係者ミーティングでは、どの自治体でも、独居高齢者の支援に関する課題と、地域の助け合いの減少が議題に挙がった。関係者ミーティングで語られる自治体内のコミュニティのあり方は、自治体によらず共通していた。従来、島しょ等地域では、コミュニティ内の互助によって、人材や資源の不足を補ってきた。しかし近年、人口の高齢化、独居高齢者の増加、島内での親戚関係の希薄化、コミュニティに属さない住民の増加があり、かつてのように住民同士の互助に期待することができなくなっている。それがさらに、地縁が希薄な独居高齢者を生み、支援が必要な高齢者に早期に気づき、早期から関わることの困難さが増している。この課題について、いずれの自治体も危機感を持っており、今後の支援体制について積極的に検討しようとしている姿勢が感じられた。

次に多かったのは、自動車運転免許返納後の移動手段の確保課題である。内地では、免許返納後に電動カートの貸し出しを行なっている自治体がある。しかし、平坦地の少ない島しょ地域や中山間地域では、登坂では運転スピードが極めて緩慢で利用者にとって不便であり、下り坂ではスピードの制御が困難で事故のリスクが高くなる等、カートの有効な使用が困難である。つまり、国の推奨する自家用車の代替としての電動カートは、これらの地域ではうまく機能しないという指摘があった。また、島内には公共交通機関がないため、主たる移動手段は自家用車である。そのため、免許返納後は、これまで通っていた活動や集いの場に行けなくなる高齢者が多く、本人が望まなくても引きこもり状態になる高齢者が一定数いるといった意見が挙がった。いずれの地域でも、自家用車の運転ができなくなることは、外出や社会参加の機会の減少に直結し、身体機能や認知機能の低下にも影響を与えることが懸念された。このような、移動手段のない高齢者に社会参加の機会を創

出するため、送迎付きのカフェ事業を開始し高齢者同士の交流を図っている地域があるなど、地域の実情に合わせた取組みが聞かれた。

### 3. 住民の認知症に対する認識の課題

住民の認知症に対する認識について、「住民は認知症のある高齢者に普通に接しており、偏見は感じない」という意見が挙がる一方で、「認知症関連の講座を受講すること自体に抵抗がある」、「認知症によって生じる困りごとに関する知識を持っていない」、「住民は認知症に関する相談先を知らない」といった意見が複数の地域で挙げられた。また、本事業の住民向け講座の参加者のリクルートに対する困難感も語られた。背景には、「参加すると認知症だと思われる」等の理由から参加することに心理的抵抗感を持つ住民や、認知症への関心が低い住民が多いことが語られ、自治体から講座の開催を周知しても参加者が多くは集まらないということだった。

本事業では、これまで各自治体で住民向け講座を開催してきた。従来の方法でアプローチできていたのは、認知症に対する関心が高い住民層であったと考えられる。共生社会の実現に向けて、今後は、認知症への関心が低い住民に対するアプローチが課題となる。

### 4. 今後の事業の取組

関係者ミーティングで語られた内容から、独居高齢者の支援や、住民の認知症に対する認識の課題が把握された。認知症になっても、住み慣れた地域でできるだけ長く暮らすためには、住民の認知症に対するスティグマへのアプローチが必要である。これまで本事業では認知症への関心が高い住民へのアプローチが中心であったが、今後は認知症への関心が低い住民に対してアプローチしていく必要があり、そのためには、本事業を積極的に活用すること、積極的に活用できる形に発展させていくことが必要と考えられる。

本事業の発展のためのひとつの方向性として、介護予防事業と認知症支援事業の一体化が考えられる。なぜなら、認知症への関心が低い住民のなかにも、介護予防、フレイル予防への関心は一般に高い者がいることが予想され、認知症事業への参加には抵抗があっても、予防事業への参加は可能である層が存在すると考えられるからである。

今後の事業展開として、認知症に対する関心の高い住民へのアプローチも引き続き積極的に行うとともに、本事業でアプローチできる住民層を広げられるよう、予防事業との一体化実施を目指す。事業運営を通して、専門職および住民が認知症に対する正しい理解を

深める機会を提供し、地域の認知症対応力の向上と、認知症のスティグマ軽減に寄与することに努める所存である。

島しょ地域等の認知症対応力向上に向けた支援事業 令和6年度事業実施報告書

発行

令和7年3月

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

執筆

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

高岡陽子・中山莉子・小野真由子

監修

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

センター長 井藤佳恵